

商船三井

三井造船、次世代機関状態監視システムの運用を開始

Edited By LogisticsToday On 2016/06/21

三井造船は20日、子会社の三造テクノサービ ス(岡山県玉野市)が日本海事協会と共同で、同社製の「MAN B&W船用主機関」を対象にした次世代機関状態監視システム「C-MAX Se-GICSX」の研究開発を行い、4月からサービ スを開始したと発表した。

商船三井から電子制御二元燃料主機関搭載船M/V「TARANAKI SUN」7S50ME-B9.3-LGI向けにC-MAX Se-GICSXシステムを受注し、搭載した。

この監視システムは、機関に設置された複数のセンサーデータに加え、気象・海象などの航海データを含むヒ ック データの相関関係を高度なアルゴ リス ムを用いて船内で 解析・監視し、早期に的確な異常診断を行うもので、船内の異常診断結果を陸上で 解析する性能診断にも反映する。

Article printed from Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト : <http://www.logi-today.com>
URL to article : <http://www.logi-today.com/240752>
Copyright © 2020 Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト, All rights reserved.